

「お花見の季節を迎えて」

秋田県・洞雲寺住職 柴田康裕

数年前のことですが、四月も終わりだというのに、お寺の境内にある桜の木が、一向に花を咲かせません。五月に入ってから、ようやくチラホラ咲き始めましたが、そのまま葉桜になってしまった枝もあり、結局、その年は、満開の桜の花を見ることはできませんでした。

ある方にその理由を尋ねてみますと、どうも大雪が関係しているそうなのです。その年の冬は、三年続きの大雪で、山の雪解けが、いつもの年より遅くなってしまったために、木々の芽吹きが遅れて、それを餌とする鳥たちが、山から里へ下りてきて、桜の蕾をほとんど食べてしまったというのです。

その大雪を降らせる原因の一つに、地球の温暖化があるとされています。地球の温暖化によって、海水の温度が上昇したことにより、大量の水蒸気が発生して、それが空に上がって雲となり、やがては大雨や大雪となって地上に落ちてくるというわけです。

その地球の温暖化の原因は、これにも色々な説があるようですが、一説には、私たちの生産活動によって排出される二酸化炭素や窒素などの温室効果ガスによるものだと言われています。

つまり、「桜の花が咲く」ということの中に、地球全体の環境の問題が深く関わっているのです。そして、その地球環境の中には、当然、そこに住む私たち人間も含まれています。

ですから、「桜の花を見つめる」ということは、そのまま「自分の生き方を見つめる」ということでもあるのです。

今年もお花見の季節を迎えて、各地で楽しい宴が催されておりますが、今一度、自分の生活のあり方について考えてみようではありませんか。

例えば、冷暖房を使用する時には、あまり上げ過ぎたり下げ過ぎたりしないように、適切な温度に設定するということが、また、無駄な電気や水を使わないということ、更には、ゴミはきちんと分別して出すということなど、日常生活の中でできることを、地道に続けながら、自分の足元をしっかりと見つめて参りましょう。